

## 第2章 地域活性化を支える人的資源とは

### 1 地域活性化に必要となる地域資源

地域の活性化に向けた取り組みや計画において、必ず言われるのが、「地域資源を活用した地域の活性化」である。この「地域資源」について一般的には、特定の地域に存在する特徴的な固有の「もの」を地域資源として定義づけしていると考えられる。しかしながら、「地域資源」という言葉は多義的で様々な解釈が存在している。また、過去から持続して存在してきたものだけでなく、新たに考案された建築物や食べ物、キャラクター商品なども、「地域資源」として取り上げられる場合もある。従って、「地域資源」とは明確な定義はなく、地域活性化のために活用しようという意図があれば、どのようなものでも「地域資源」に成り得ると考えられる。

このような中、三井情報開発株式会社総合研究所が整理した地域資源の分類があり、これを株式会社日本総合研究所が一部修正・加筆したものが表 2-1 である。

表 2-1 地域資源の分類

|  |                                     |                                   |                             |
|--|-------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|
| 固定資源<br>地域に固定されているもの<br>地域内で活用、消費されるもの | 地域特性資源                              | 気象的条件                             | 降水、光、温度、風、潮流 等              |
|  |                                     | 地理的条件                             | 地質、地勢、位置、陸水、海水 等            |
|  |                                     | 人間的条件                             | 人口の分布と構成 等                  |
|  | 自然資源                                | 原生的自然資源                           | 原生林、自然草地、自然護岸 等             |
|  |                                     | 二次的自然資源                           | 人工林、里山、農地 等                 |
|  |                                     | 野生生物                              | 希少種、身近な生物 等                 |
|  |                                     | 鉱物資源                              | 化石燃料、鉱物素材 等                 |
|  |                                     | エネルギー資源                           | 太陽光、風力 等                    |
|  |                                     | 水資源                               | 地下水、表流水、湖沼、海洋 等             |
|  |                                     | 環境総体                              | 風景、景観 等                     |
|  | 歴史的資源                               | 遺跡、歴史的的文化財、歴史的建造物、歴史的イベント、郷土出身者 等 |                             |
|  | 文化・社会資源                             | 伝統文化、芸能、民話、祭り、イベント、スポーツ 等         |                             |
|  | 人口施設資源                              | 構築物、構造物、家屋、市街地、街路、公園 等            |                             |
|  | 人的資源                                | 技術資源                              | 労働力、技能、技術、知的資源 等            |
|  |                                     | 関係資源                              | 人脈、ネットワーク、相互信頼、ソーシャルキャピタル 等 |
| 情報資源                                   | 知恵、ノウハウ、電子情報、ブランド、評判、制度、ルール、愛着、誇り 等 |                                   |                             |
| 流動資源<br>地域内で生産され、地域外でも<br>活用、消費されるもの   | 特産的資源                               | 農・林・水産物、同加工品、工業部品、組立製品 等          |                             |
|  | 中間生産物                               | 間伐材、家畜糞尿、下草や落葉、産業廃棄物、一般廃棄物 等      |                             |

出所：https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=6989 (2019.1.閲覧)

この分類では、大きく「固定資源」と「流動資源」に分けられ、更に、「固定資源」は7つの分類に、「流動資源」は2つの分類に分けられる。この分類において、一般的に「地域資源」として捉えられている草津市固有のものをあてはめたものが表 2-2 である。

表 2-2 草津市における地域資源

|  |         |                           |                       |
|--|---------|---------------------------|-----------------------|
| 固定資源<br>地域に固定されているもの<br>地域内で活用、消費されるもの | 地域特性資源  | 気象的条件                     | 四季を感じることのできるまち        |
|  |         | 地理的条件                     | 交通の利便性が良いまち           |
|  |         | 人間的条件                     | 人口増加が続くまち             |
|  | 自然資源    | 原生的自然資源                   | 琵琶湖                   |
|  |         | 二次的自然資源                   | 草津川跡地公園、北山田のハウス群、田園風景 |
|  |         | 野生生物                      | あおばな                  |
|  |         | 鉱物資源                      | -                     |
|  |         | エネルギー資源                   | -                     |
|  |         | 水資源                       | 琵琶湖                   |
|  |         | 環境総体                      | 草津八景                  |
|  | 歴史的資源   | 草津宿本陣、芦浦観音寺 等             |                       |
|  | 文化・社会資源 | 宿場まつり、サンヤレ踊り、イナズマロックフェス 等 |                       |
|  | 人口施設資源  | 草津川跡地公園、矢橋帛帆島公園、水生植物公園 等  |                       |
|  | 人的資源    | 技術資源                      |                       |
|  |         | 関係資源                      |                       |
| 情報資源                                   | 立命館大学   |                           |                       |
| 流動資源<br>地域内で生産され、地域外でも<br>活用、消費されるもの   | 特産的資源   | 草津ブランド(草津メロン等)            |                       |
|  | 中間生産物   | 水草堆肥                      |                       |

出所 : <https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=6989> (2019. 1. 閲覧) 元に草津未来研究所作成

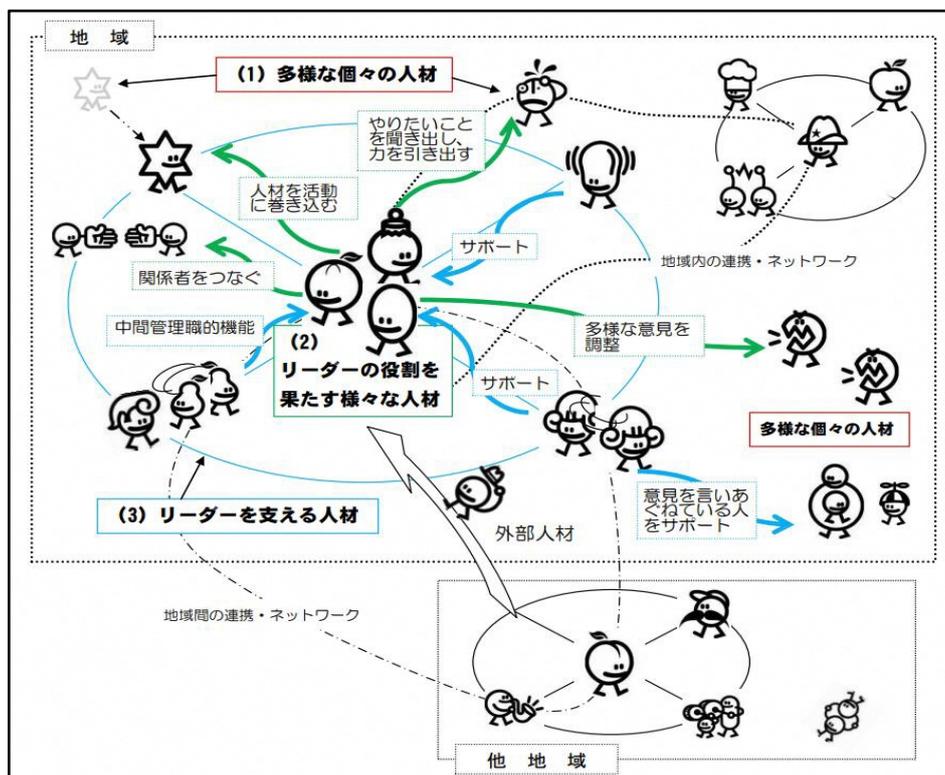
この分類にあてはめると、これまでの取り組みから「人的資源」のみ言語化が困難となる。これは、特記できるような資源について、言語化が困難であることを表し、今後この人的資源について、言語化可能なように整理していく必要もある。

## 2 地域活性化に関わる人的資源

これまで、地域活性化に係る様々な事例集やハンドブック、自治体等が提示する方針や計画などが公開されているが、そのほとんどの事例にはキーパーソンが存在がある。キーパーソンは必ずしも地域住民だけではなく、コーディネーターとして広域に活動する個人、企業もあり、また自治体の首長や議員の事例もあり、キーパーソンがリーダーとして主体

的な活動を行う事例もあれば、キーパーソンがリーダーのサポート役として活動を行う事例もある。これらの事例において共通して言えることは、複数の協力者が存在することと、常に楽しみながら活動を行っているということである。

国（総務省）においても、2010(平成22)年度から地域活性化の基本的な要素である人材の強化を図るため、「人材力活性化研究会」を開催し、これまで、「地域づくり人の育成に関する手引き」などを作成し、地域づくり人の育成に係る考え方やリーダーの役割、更にリーダーを支える人材や、同研究会が関わる研修会事例集が紹介されているが、求められる人材像として、地域をまとめていくリーダーやリーダーを支える人々の存在が重要であると述べられている。その中心としておかれ、地域で必要とされる人材についてのイメージが図2-1である。

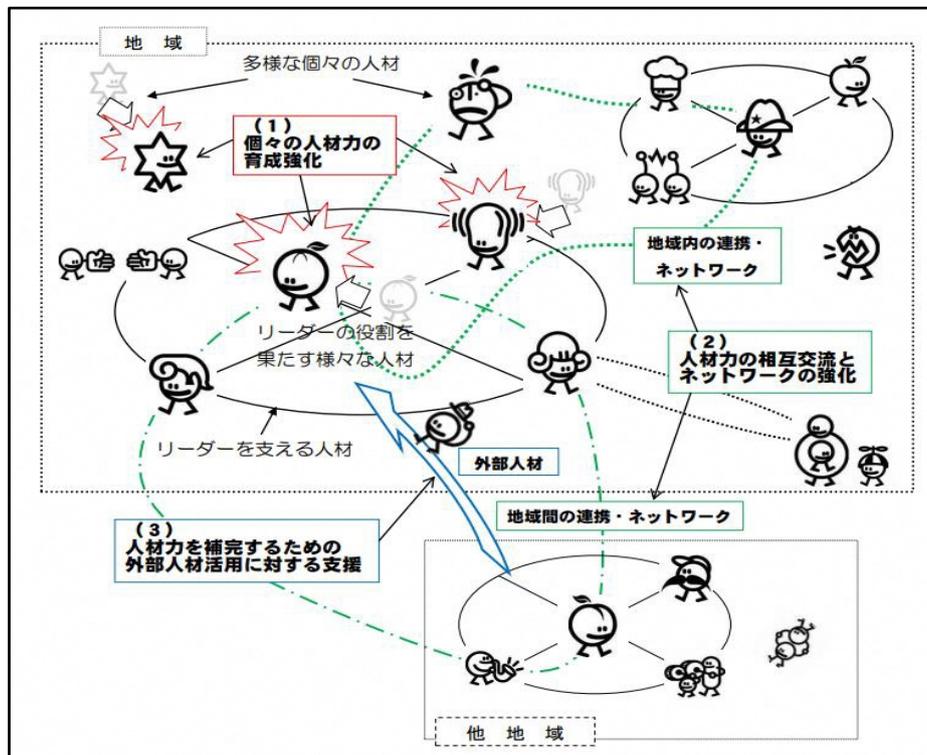


出所：総務省人材力活性化研究会（2011）p.3

図2-1 地域で求められる人材のイメージ

ここでは、人材として、「多様な個々の人材」の存在を前提として、そのうち「リーダーの役割を果たす者」と「リーダーを支える者」に分け、他の人材との関係性を中心に活動をするのが意識されている。

そのような人材の活動を活発化し、さらには育成していくために必要とされることについて、整理されたのが図 2-2 である。



出所：総務省人材力活性化研究会（2011）p. 7

図 2-2 人材の活性化に向けた3つの柱

ここでは、個々の人材力の育成強化のみならず、相互交流とネットワークの強化、地域外の外部人材活用のための支援といったことがあげられている。このような取り組みについては、草津市として既に行われていることであるが、現在行われていることの多くは、すでに地域活動に積極的に関わっている層を中心としており、今後においては、特に個々の人材力の育成強化とかがかわって、その強化を行う対象を新たに積極的に見出し、その者に働きかけて、地域を支える人材にしていくことが必要となる。

さらに、その際に求められる素養として、「リーダー」「サポーター」「プレーヤー」にわけて整理されている(表 2-3)。

表 2-3 地域人材に必要となる素養

|                      | リーダー | サポーター | プレーヤー |
|----------------------|------|-------|-------|
| 論理的に考えること            | ○    | ○     | ○     |
| 人材を見出し才能を開花させること     | ○    |       |       |
| 考えること、見守ること、アシストすること | ○    | ○     | ○     |
| よき導き人であること           | ○    |       |       |
| 自分のために活動している感覚を持つこと  | ○    | ○     |       |
| 自らが活性化すること           | ○    | ○     | ○     |
| ITに触れる・使うこと          | ○    | ○     | ○     |
| あわてるな・せかすな・近道するな     | ○    |       |       |
| 流れは自分でつくること          | ○    |       |       |
| 目からうろこが落ちただけ？        | ○    | ○     | ○     |

出所：総務省人材力活性化研究会（2012）pp. 4-5 より作成

このように多岐にわたる素養が必要とされるが、必ずしもすべての素養を最初から兼ね備えている必要はなく、活動に応じて学習していくこともあれば、外部の研修を受けることにより身につけることも可能である。

草津市においては、今後の超高齢化社会を見越した上で、地域を支える人材を増加させていく必要があり、そのためには、現在草津市に居住し、地域を支える人材として期待される 50～70 歳の市民について、その地域活動における意欲や意思を確認した上で、今後の活動について検討しなくてはならない。特に、総務省（2011）で示されている中では、転入してきた人材に地域間の連携活動が期待できることから、地域間の違いも考慮した検討が必要である。